

〈海外短信〉

澳門におけるカジノ産業の影響とその特殊性

野 口 一 良 *

「私たちの空はどこにいつってしまったのか。空を返してほしい。」このような内容のスピーチが、2008年澳門日本語スピーチコンテスト、中高生の部のスピーチで聞かれました。急激な社会変化をいち早く敏感に感じた年代からの声でした。2005年からの3年間、澳門にサンズ、ベネチアン、ウイン、ギャラクシー、メルコ、MGMなどのカジノができました。この稿では、カジノ産業の急速な発展で澳門に起こった変化を、利点、欠点も含め、述べてみたいと思います。もし日本の一小都市が、赤字財政を黒字に変換するような規模でカジノ産業に力を入れた場合、どのような変化が予想されるかのご参考になればと思います。

1 カジノ産業発展による利点

カジノ産業発展による利点は、政府収入の増加、雇用の増加、観光産業の発展、賃金の上昇という点に挙げられます。

マカオ政府の2005年の経常収入は、227億6870万マカオドル（パタカ）、2007年には、499億1967万パタカと2.19倍に増加し、ゲーミングセクターからの税による収入は、2007年には、63%を占めました。住民への利益還元の為、2008年の夏、永久居住証を持っている住民に、子供を含め、一律一人5000パタカ支給されました。4人家族で2万パタカ（約25万円）にもなります。今年も、昨年以上の定額給付金を出す計画があるようです。また、医療も65歳以上と12歳以下の子供は、薬代を含む医療費は全額無料となっています。また、今年度は、各住民に医療クーポンを渡す計画もあります。治療費を現金の代わりにクーポン券で支払うという発想です。街もきれいに整備され、私が1992年にマカオに来たときと比べるとまるで別の街に住んでいるような印象さえ受けます。

雇用も増加し、2000年第4期の6.6%の失業率が、世界同時経済危機の状況下の2008年第4期でも、3.3%です。

観光客も増加し、2005年に1871万人の訪澳者が、2007年には、2699万人と2年間で1.4倍を増加しました。日本人も2005年の16万9千人から2007年の29万9千人と1.8倍を増加しています。

賃金も大幅に上昇し、2003年に大学卒の新卒の給料が約6500から7000パタカであったのに対

* 澳門大学社会人文学院日本研究センター所長

し、2008年には約9000から9500パタカに上昇しています。カジノ関係の仕事だと初任給で約1万5千パタカ（18万5千日本円）になります。

2 マカオのカジノの特殊性

では、日本でカジノ産業を誘致したら、マカオと同じような収益を得られるのでしょうか。マカオのカジノ産業の主な特殊性は、カジノ収益の形態と観光客の特殊性と言えると思います。

カジノには、一般客が賭けるマースゲームの場所とVIPルームというのがあり、VIPルームの客は、1度に賭ける金額が桁外れに大きく、例えば、バカラのテーブルで1回に数百万円から数千万円の金額が動くこともあります。VIPルームからの収益が比較的少ないといわれているベネチアンカジノでも、世界同時不況の前はVIPルームからの収益が6割を占め、現在でも収入の4割を占めます。日本でカジノを開いた場合、VIPルームからの収益がどれだけ期待できるでしょうか。一日に千万単位、億単位でお金を使う客を誘致できるでしょうか。また、ベネチアの場合、現在6割がマースゲーミング収入といっても、スロットマシンからではなく、バカラによる収入が多く、一般客がするバカラの一回の最低掛け金は、一人300香港ドル（3800日本円）で、一回2、3分のゲームです。一般の日本人がこんなゲームを何回もするでしょうか。観光客の特殊性でも、賭ける金額の点で、賭け事に対する真剣さでは、日本人は中国人に、十歩も百歩も遅れをとります。日本で一般大衆を対象にカジノ産業を立ち上げても、澳門のような収益が得られないと思われます。

3 急速なカジノ産業発展によるマイナスの影響

マイナスの影響には、急激な人口の増加、富裕層の急激な増加、不動産バブル、一般企業からの人材流出などが考えられます。

まず、急激な人口の増加ですが、マカオの人口は、2003年12月の44万7千人から2008年12月の54万9千人と急激に上昇し、外地労働者（中国本土も含む）も2004年1月の24,858人から2009年1月の90,203人と3.6倍に上昇しました。人口の17%を外地労働者が占めています。富裕層も急激に増加し、2004年、2005年には、欧米やオーストラリアなどから数千人がマカオに来たことにより、人口の約10%の富裕層が急速に形成され、レストラン価格、不動産価格、賃貸料の上昇などの物価上昇の一役を担いました。

急激な人口の上昇、投機資金の流入等により、不動産バブルがおり、2003年のSARSで冷え込んだ不動産価格が、所によっては、3倍から4倍近く上昇し、もはや、一般庶民が購入できる価格を遥かに超えてしまいました。また、「私たちの空はどこに行ったのか」と中高生が悲鳴を上げるほどの建設ラッシュも続き、街の様子が変貌しました。

カジノ産業の発展は、既存企業への人材確保にも影響し、一般企業とカジノ産業の賃金格差により、上級、中間管理職を含む一般企業の就労者がカジノ産業に流出し、一般企業の優秀な人員の不足、空洞化現象を引き起こしました。特に、中小企業は甚大な被害を被りました。日本にカジノ産業が

澳門におけるカジノ産業の影響とその特殊性

できた場合、現在世界的な不況で人材をぎりぎりまで縮小している地元の中小企業に対する影響は、計り知れません。

議員団体も含め、日本からマカオを訪問する団体は、後をたちません。マカオの繁栄を表面的に見ると、それを日本の小都市に置き換えて、「カジノ産業の誘致を」というような声が出てくるのは当然かもしれません。しかし、カジノ産業を誘致する前に、カジノ産業がどのような影響を地元を与えるのかを、綿密に研究する必要があると思われます。